

沖縄島北部におけるカラスバト *Columba janthina* の夏期の集団ねぐら

渡久地豊¹・金城道男²・市田豊子³

1. 日本野鳥の会やんばる支部. 〒905-11 沖縄県名護市字呉我685
2. 日本野鳥の会やんばる支部. 〒904-23 沖縄県与那城字与那城284-1
3. 日本野鳥の会やんばる支部. 〒905-13 沖縄県大宜味村字喜如嘉2234

はじめに

カラスバト *Columba janthina* は、主として伊豆諸島・本州温暖部と九州の海岸部ならびに付属島嶼・薩南諸島・沖縄諸島に分布する。伊豆諸島・薩南諸島の一部では比較的容易に観察できるが、そのほかの地域では個体数が少ない(環境庁 1991)。カラスバトは常緑樹のうっそうと茂る森林に生息する。極相林の巨木の梢をねぐらとし、朝、昼、夕に時刻を定めて採食地に飛来する。ねぐらとする木は一定しているのが常である(清棲 1965)。東京都三宅島ではカラスバトが数 10 羽程度のねぐらをつくるのが観察されているが(樋口広芳 私信)、沖縄島本部半島では 1992 年 12 月から 1993 年 3 月にかけての冬期に最大 2,800 羽の集団ねぐらが観察されている(安座間ほか 1993)。このたび、冬期のねぐらとは別の場所で夏期の集団ねぐらが観察されたので報告する(図 1)。



図 1. ハマイヌピワで休むカラスバト

Fig. 1. Japanese Wood Pigeons resting on *Ficus virgata*.

1995 年 12 月 8 日 受理

キ - ワ - ド : 沖縄島, カラスバト, 集団ねぐら

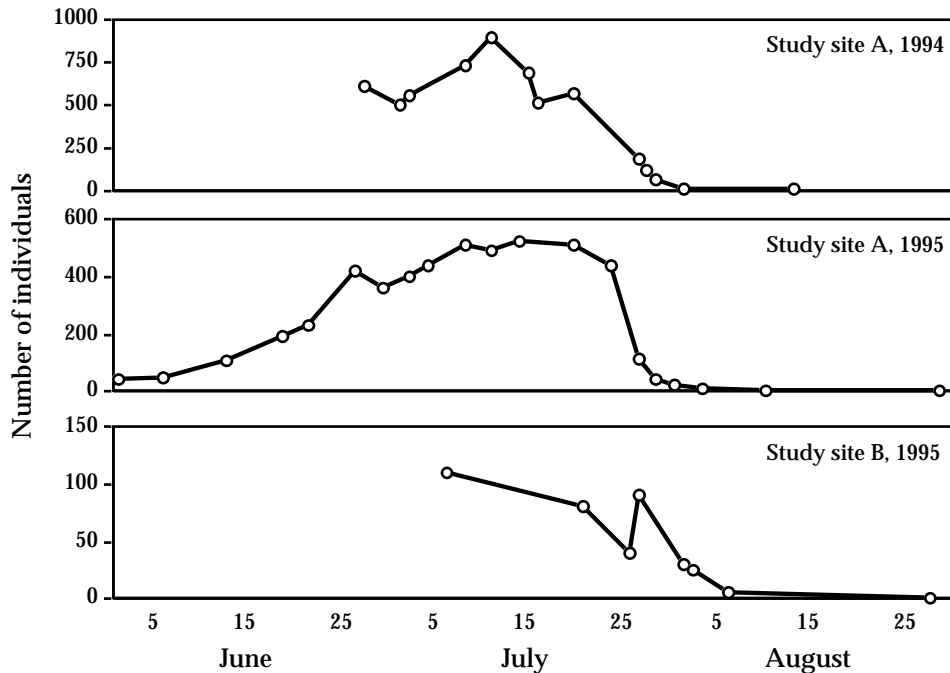


図2. ねぐらを利用するカラスバトの個体数の変動.

Fig. 2. The fluctuation of numbers of Japanese Wood Pigeons at roost site.

調査地および調査方法

カラスバトの夏期の集団ねぐらは、沖縄島北部名護市の北に位置するやんばる地区の2か所で観察された。これらの2か所はいずれも海岸から100~500 mほど離れた複数の谷間の森林で、日の出直後には太陽光線が入射しない南西の斜面にあった。A調査地はガジュマル *Ficus microcarpa* などを中心とした常緑広葉樹林で、B調査地はリュウキュウマツ *Pinus luchuensis* を中心にした針広混交樹林で、いずれも二次林である。なお、天然記念物のカラスバト保護の観点から、調査地の詳細な地名は省略した。

調査は、A調査地において行ない、1994年は6月から8月にかけて日の出前後の5:15-7:15にねぐらから飛び去るカラスバトの個体数を13回記録し、1995年は6月から8月にかけて、日の入り前後の17:45-19:45にねぐらに飛来する個体数を21回記録した。データは上記時間内に5分間隔に飛去あるいは飛来した羽数を合計して記録した。B調査地では1995年7月から8月まで朝夕のねぐらの出入りを不定期に8回記録し、参考記録とした。

結果および考察

A調査地では1994年6月26日にねぐらを発見し18:00から19:35のあいだに135羽を記録した。このねぐらの利用は8月14日まで観察された。飛来したカラスバトの個体数がピークに達したのは7月12日で、観察された個体数は898羽であった(図2)。

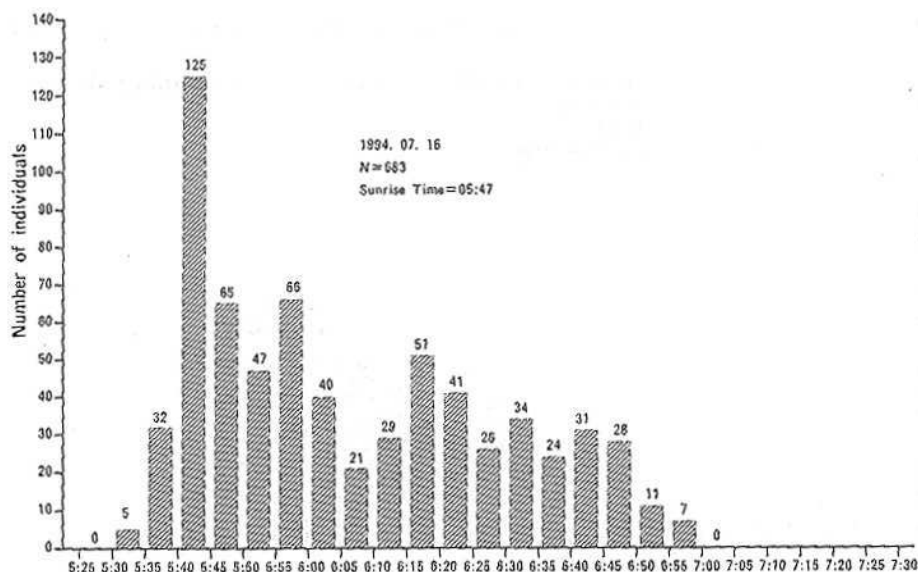


図3. A調査地における5分毎にみたねぐらから飛立つカラスバトの個体数.

Fig. 3. Numbers of Japanese Wood Pigeons flying out of roost sites every five minutes in study site A.

夜明けのねぐらからの飛立ちは1994年7月16日の場合、5:30-5:35からはじまり、日の出の5:47をはさんで6:55-7:00で終了した(図3)。ねぐらからの飛立ちのピークは5:40-5:45であった。ねぐらからの飛び立ちは日の出の約25分前から始まり($24.9分 \pm 2.4$, S.D, $N = 13$), 約64分後に終了した($63.9分 \pm 10.9$, $N = 13$)。

1995年は6月1日からねぐらが確認され8月4日まで観察された。飛来したカラスバトの個体数がピークに達したのは7月16日で、観察された個体数は601羽であった(図2)。この傾向は7月6日に発見されたB調査地のねぐらでも同様だった(図2)。

日没のねぐら入りは1995年7月15日の場合、17:50-17:55から始まり日の入りの19:24をはさんで19:35-19:40で終了した。ねぐら入りのピークは19:20-19:25であった(図4)。ねぐらへの飛来は、日の入りの約80分前から始まり($79.3分 \pm 13.0$, $N = 21$), 約13分後に終了した(12.7 ± 4.2 , $N = 21$)。

カラスバトの夏期の集団ねぐらの存続期間は約2か月であった。本部半島で観察された集団ねぐらの場合は冬期と夏期の集団ねぐらがほぼ同一地区にみられたが、A調査地において冬期のねぐらは観察されなかった(1994年12月2日0羽)。なぜ、夏だけ利用されるねぐらと夏から冬にかけて利用されるねぐらがあるのかについては今後の調査で明らかにしていきたい。

謝辞

本調査を実施するにあたり、日本野鳥の会やんばる支部の平良孝春氏、玉城克彦氏にご協力いただいた。また、東京大学の樋口広芳教授にご助言いただいた。本稿をまとめるにあたり、日本野鳥

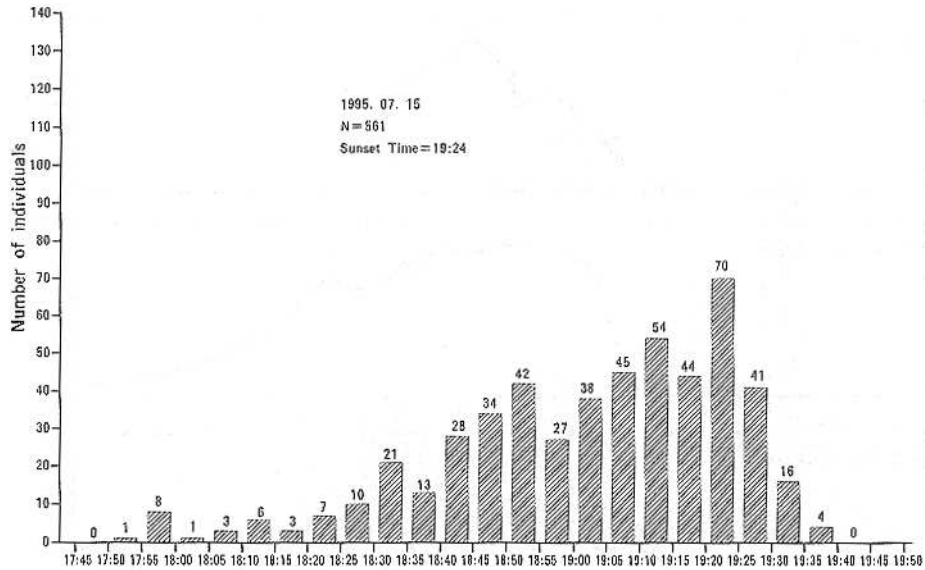


図4. A調査地における5分毎にみたねぐらに入るカラスバトの個体数.

Fig. 4. Numbers of Japanese Wood Pigeons coming in to roost sites every five minutes in study site A.

の会の市田則孝氏にご指導をいただいた。これらの方々から心からお礼申し上げる。

引用文献

- 安座間安史・原戸鉄二郎. 1993. 本部町の鳥類について(中間報告). 本部町動植物総合調査(動物調査中間報告). pp.4-21. 本部町教育委員会, 本部町.
- 清棲幸保. 1965. 日本鳥類図鑑. 講談社, 東京.
- 環境庁(編). 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生生物(脊椎動物編). pp. 189-190. 日本野生生物研究センター, 東京.

Summer roost site of Black Wood Pigeons in Okinawa Island

Yutaka Toguchi¹, Michio Kinjou² & Toyoko Ichida³

1. 685 Goga, Nago-shi, Okinawa 905-11, Japan

2. 284-1 Yanashiro, Yonashiro-cho, Okinawa 904-23, Japan

3. 2234 Kijoka, Ogimi-son, Okinawa 905-13

We observed 2 summer roost sites of Black Wood Pigeons in northern Okinawa Island, southern Japan. The pigeons used the roosts from early June to early August. The pigeons flew out of the roost sites 24.9 ± 2.4 minutes (Mean \pm SD) before sunrise to 63.9 ± 10.9 minutes after sunrise ($N = 13$). The pigeons came into the roost sites 79.3 ± 13.0 minutes before

sunset to 12.7 ± 4.2 minutes after sunset ($N = 21$).

Key words: Columba janthina, Okinawa Island, summer roost